

令和7年度 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業

中間支援ギャザリング資料（中間支援振り返りシート）

活動団体の本事業での活動テーマ

『豊かな自然と地域の宝を未来へつなぐ旅』

“ビージーサス・ジャーニー”

Blue-Green-Sustainable Journey

持続可能な観光プラットフォーム構築

活動団体の活動地域：岩手県 釜石市

活動団体名：株式会社かまいしDMC

中間支援主体名：一般社団法人ゴジヨる



中間支援主体としての獲得目標と達成状況

■ 中間支援主体としての獲得目標 【R7年度当初目標】

中間支援主体として、活動団体が環境課題を「自分ごと」として捉え、地域住民やステークホルダーへ行動変容を促す力を高めることを目指す。そのために、環境に関する基礎知識や政策、共生圏の考え方（マンダラや他地域の事例）を共有し、団体自身がそれを活用できるよう支援する。1年後には、活動団体が自らの活動の意義を再整理し、環境プログラムの実施や情報発信を通して、地域内に波及的な学びと対話の機会を生み出せている状態を目指す。

■ 中間支援主体としての獲得目標に対する振り返り（目標達成状況）

中間支援主体として人員を増員し、現場訪問頻度を昨年より増やすことで、活動団体との強固な伴走支援体制を構築した。海開き等の現場共働や対話を重ねた結果、団体内での「内省」が進み、根浜の特色を活かした商品づくりなど、環境課題を自分ごと化した具体的な事業方針が定まった。年度後半には、団体側が別事業でも環境推進に舵を切るなど、一職員の意識変容が組織全体のうねりへと発展した。1年を通じ、次年度に地域内へ波及的な学びと対話を生み出すための、強固な組織基盤と機運を醸成することができた。

中間支援機能ごとの振り返り

チェンジエージェント機能		R7獲得目標（R7年度当初設定） 高めたい機能（◎/○）とその理由		現状の自己評価（R7年度末時点） 自己評価（◎/○/▲）とその理由	
変革促進	物事を整理する	◎	活動が地域や環境に与えるインパクトを言語化し、社会的意義を明確にするため。	◎	自らの活動内容や意義を整理・言語化できるようになり、活動員がどのような立場で本事業に関わっているかを改めて見つめなおすことができたため。
	意味づける 癒しとなる				
	見通しをつける	○	地域関係者が共感・参画できるビジョンを策定し、中長期的な指針とするため。	◎	団体の成り立ちや地域の特徴を整理し、地元の団体のストーリーや未利用資源をつなげていける次年度への活動展望が描けたため。
プロセス支援	話を聞く				
	場を開く	◎	団体の主体的な変化を促し、役割の再認識とステークホルダー間の連携体制を強固にするため。	○	昨年度よりタッチポイントを増やすことで、活動団体の変化や課題をより早期にキャッチできるようになったため。
	喝を入れる	○	団体の主体的な変化を促し、役割の再認識とステークホルダー間の連携体制を強固にするため。	○	「相談対応」だけでなく「客観的な気づきの提供」を重視する姿勢にシフトできたため。
資源連結	現在地を確認する				
	新しい人を入れる 事例を紹介する				
	引き出す	◎	事業構築の核となる「事業の種」を、団体の対話の中から掘り起こすため。	◎	活動団体から複数の企画案が各団体内で認識され、自然資源商品の開発・販売の試行をしながら、新たな課題に気づくことができたため
	拡散する	○	多様な事業主体を巻き込みながら、ネットワークづくりを後押しするため。	○	高校生向け授業や企業研修、地域イベントなどを通して、外部との接点が拡大しつつあるため。
問題解決提示	文字や図に落とす 問いを立てる				
	会議を進行する	◎	定期的な対話の場を設計・運営し、伴走支援を通じた合意形成を加速させるため。	◎	定期的に現場で声を聞く中で、活動団体が「自分たちの課題や方向性を素直に相談する」姿勢が少しずつ強まったため。
	落としどころを探る	○	各主体の意向を汲み取り、実現可能な事業スキームとして着地点を見出すため。	○	活動団体から定期的に意見をもらう機会が増え、課題共有や次のアクション検討がスムーズになったため。
その他	※必要に応じて追加				

今後の中間支援主体のありたい姿

■ 中間支援主体としての本事業終了後の地域づくりへの貢献 【R7年度当初目標】

本事業を通じて培った伴走型支援のスキルや、活動団体の主体性を引き出す心理的な支援手法、さらにネットワーク構築とデータ活用の経験を活かし、地域の多様な主体がつながり、協働できる土壌を整備していく。
また、地域循環共生圏の考え方を基盤に、環境・観光・教育など複数分野の活動を横断的に捉え、それぞれの取り組みが相互に補完し合う関係性を築く支援を行うことで、地域内に持続可能な連携の仕組みを根づかせる。
将来的には、地域内外をつなぐハブとして、他地域の成功事例や政策との接続も図りながら、共生圏づくりの広がりや深化に貢献していく。

■ 地域づくりに貢献していくために、今後、どうなりたいか

目指す姿	目標達成に向けた、次年度の行動	チェンジエージェント機能での分類
分析力と進行管理による包括的支援力の強化 課題を可視化する分析力と協働を導く進行管理能力を磨き、資金還流の仕組み構築やネットワーク強化を包括的に支援できる力を養いたい。	<ul style="list-style-type: none">・ 課題の構造化と可視化の徹底・ 合意形成を主導するプロアクティブな進行管理・ 持続可能な循環モデルの設計と実装	対話の促進 現状分析 メンタルモデルの探求
事業構築の伴走支援の確立 地域資源の商品化から資金配分の仕組みまで、企画・実行を一貫支援する手法を体系化し、成果に繋がる伴走体制を強化したい	<ul style="list-style-type: none">・ 支援プロセスの標準化とツール整備・ 成果にコミットする進捗管理の徹底・ 持続可能な資金循環スキームの埋め込み	戦略策定・実装 自走化の推進 CANの形成

■ 地域づくりに貢献していくために、外部地域や関係者と連携や協力したいこと

鵜住居・箱崎・根浜の特産品販売を通じ、環境保全へ資金還流する仕組みを構築する。かまいしDMCが主体となり、R8年度は連携強化と準備に注力。

【販売・流通】「うのすまい・トモス」や「根浜シーサイド」、魚河岸テラス等の観光拠点に加え、ホテルや駅で販売。生産者からDMCが集約・ブランド化し、各店舗やEC、スタジアムイベントへ展開するルートを確立し、地域全体で保全活動を支える機運を高める。